



## ◆◆関東地方整備局の動き◆◆

### 1. 平成23年度「手づくり郷土賞」(国土交通大臣表彰)に関東地方整備局内で3件選定

昭和61年度に創設され、今年度で26回目の開催となる「手づくり郷土賞」(国土交通大臣表彰)では、今般、手づくり郷土賞選定委員会が開催され、16件(一般部門12件、大賞部門4件)が選定されました。このうち関東地方整備局管内では、一般部門3件が選定されましたのでお知らせします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku\\_00000482.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000482.html)

### 2. 東京港臨海道路(東京ゲートブリッジ)の開通について

東京港臨海道路(東京ゲートブリッジ)の開通日については、平成23年11月15日に発表したところですが、このたび開通日時と開通式の詳細が決まりましたのでお知らせします。

#### 【開通日時】

開通日時 平成24年2月12日(日) 午前10時

開通区間：中央防波堤外側埋立地～江東区若洲(約4.6キロメートル)

#### 【開通式】

日時 平成24年2月11日(土・祝) 午前11時から

会場 江東区立若洲公園周辺

主催 国土交通省関東地方整備局、東京都

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/tokyo-p\\_00000012.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/tokyo-p_00000012.html)

### 3. 河川砂防技術研究開発公募の開始について

国土交通省は、平成24年1月6日(金)より、河川砂防技術研究開発公募における新規課題の公募を以下の分野で開始しますのでお知らせします。(募集〆切は2月1日(水))

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku\\_00000473.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000473.html)

## ◆◆国土交通本省の動き◆◆

### 1. 国連生物多様性の10年「グリーンウェイブ2012」の実施について

生物多様性条約事務局は、国連が定める「国際生物多様性の日」（5月22日）に世界各地の青少年の手で植樹等を行う「グリーンウェイブ」の実施を呼び掛けています。また、国連は2011年から2020年までの10年を「国連生物多様性の10年」と定めています。

これに応じ、国土交通省は、環境省及び農林水産省とともに、平成24年3月1日より6月15日までの期間、「グリーンウェイブ2012」への参加と協力を広く国内に呼びかけますのでお知らせします。

詳しくは国土交通省ホームページをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000061.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000061.html)

### 2. 道路政策の質の向上に資する技術研究開発について ～研究の募集～

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合することにより、道路政策の質を一層向上させるため、平成16年10月に新道路技術会議（委員名簿：別紙1）を設置し、道路政策の質の向上に資する技術研究開発を進めているところです。

新道路技術会議では、道路政策の質の向上に資する技術研究開発を公募し、平成17年度8件、平成18年度3件、平成19年度3件、平成20年度5件、平成21年度6件、平成22年度4件を採択し、技術研究開発が行われているところです。

平成23年12月26日に開催しました「第16回新道路技術会議」において審議を行った結果、平成24年度から取り組む道路政策の質の向上に資する技術研究開発の提案を、研究者の方々から広く募集することとしましたのでお知らせします。

『募集期間 平成24年1月11日（水）～平成24年2月24日（金）』

詳しくは国土交通省ホームページをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_000234.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000234.html)

### 3. 「企業のみどりの保全・創出に関する取り組み」についてのサイトを開設しました

近年、みどりが果たすこれらの役割の重要性にかんがみ、CSR等の観点から、企業によるみどりの保全・創出に関する様々な取組みが全国各地で活発に展開されています。そこで、それらの取組みをより一層推進することを通じて、みどり豊かな都市の形成を促進するために、今般、国土交通省のホームページ内に、企業のみどりの保全・創出に関する優良な取組事例や評価制度・表彰制度など様々な情報を提供するサイトを開設しましたので、お知らせ致します。「平成23年12月27日開設」

詳しくは国土交通省ホームページをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10\\_hh\\_000085.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000085.html)

#### 4. 第5回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について

第5回の受賞者は、19の候補案件の中から選考委員会の審査を経て、4件を表彰しましたので、お知らせします。

国土交通省では、平成18年12月施行の「バリアフリー法」（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などのバリアフリー化を進めるとともに、国民の意識啓発に一層努めることとしております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、バリアフリー化に関する優れた取組みを広く普及させるとともに、これらの諸活動を奨励することを目的として、「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」を平成19年度に創設し、今般、平成24年1月17日に第5回表彰式を開催しました。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/dai5kaidaijinhyoushou.html>

## 政策広報「関東の窓」第67号

### ◆◆地域の動き◆◆

#### 橋梁点検講習会及び現地実習を実施！

～橋梁の維持管理に関する理解を深め、地域一丸で橋梁の長寿命化を目指す～

関東地方整備局 北首都国道事務所

#### 1. 目的

北首都国道事務所では、老朽化した橋梁が今後も増加していく状況に対し、橋梁の長寿命化を図るため、定期的に講習会を実施しています。今年も専門家による講習会を実施し、さらに点検や計測などを体験することで、維持管理に関する理解を深めています。また、自治体職員にも参加してもらい、地域一丸となって、道路橋の維持管理強化を目指しています。

#### 2. 橋梁点検講習会

講習会の主題は、過年度の講習会で得たアンケート結果をもとに、「道路橋の基礎知識について」「道路橋の維持管理について」「橋梁点検方法と診断について」「現地実習」と実務に繋がる講習内容を選定しました。

##### 2.1 道路橋の基礎知識について

講師：東日本高速道路株式会社

さいたま工事事務所 本間事務所長

橋梁の形式にはじまり、部材の名称や役割を説明頂きました。特に部材の説明では橋梁の大半を占める桁橋を重点的に説明頂き、普段目にするのはあっても名称や役割まで知らないものもあり、勉強になりました。



##### 2.2 道路橋の維持管理について

講師：国土技術政策総合研究所 道路構造物管理研究室 大久保主任研究官

道路橋の現状、マネジメントのあり方、管理する上での留意点、損傷事例を説明頂きました。今回参加頂いた自治体でも、アセットマネジメントはこれからというところもあり、興味深い内容でした。

## 2.3 橋梁点検方法と診断について

講師：財団法人海洋架橋・橋梁調査会 関東支部 石井技術課長

橋梁点検の方法と診断について説明頂きました。橋梁の長寿命化を図るには予防保全が重要です。予防保全には点検と診断が不可欠であることから、点検の頻度や項目、その方法、判定基準について、説明頂きました。説明は具体事例に基づいており、初めて聞いた方にも理解し易い講習でした。

## 3. 現地実習

リフト車による近接目視点検や非破壊検査等を体験しました。近接目視点検は、実際の損傷を見ながら前日の講習内容を踏まえ、損傷原因、損傷メカニズム、補修方法について、説明頂きました。実際の損傷は千差万別であり、写真でみる模範的な損傷とは異なるため、見極めの難しさを知りました。また、非破壊検査方法も日々進化しており、以前に比べ検査結果が分かり易くなっていると感じました。



## 4. 最後に

今回の橋梁点検講習会には、10自治体から16名の参加がありました。講習会後に実施したアンケートでは、自治体参加者から「今後も橋梁点検講習会を実施して欲しい」と講習会に対する評価は良かったものと思われます。

日々の業務に追われ、技術の研鑽は後回しになりがちですが、このような機会を設けることで、維持管理に関する理解を深めることができました。維持管理の重要性は増していくことから、今後も定期的に講習会を実施していきたいと思ひます。